

# 地域アクションプラン総括シート(案)

(仁淀川地域)

【地域アクションプラン 総括シート】  
 ≪仁淀川地域≫

項目名及び事業概要	具体的な取組み	具体的な成果	目標値に対する実績	
			指標及び目標値 (H23年度末)	実績 (H23年度末 見込み)
<p>1. 地域の基幹品目及び推進品目等の産地の維持・発展</p> <p>《土佐市、いの町》</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、主要品目の生産性及び品質の向上を図るとともに、安全・安心を求める消費者ニーズに対応した農産物の生産を推進する。</p>	<p>&lt;基幹品目及び推進品目の拡大、栽培技術の向上&gt;</p> <p>○園芸産地ビジョンの検討 各品目の問題、課題の洗い出しと対策についての協議</p> <p>&lt;集出荷体制の整備&gt;</p> <p>○集出荷施設等の整備 集荷体制、販売体制強化に向けた集出荷場施設等の整備に関する協議（生姜、土佐文旦、青ネギ）</p> <p>○産業推進総合支援事業費補助金</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・西部集出荷施設整備事業 H21 50,000千円</li> <li>・青ネギ集出荷施設等再編整備事業 H22 4,800千円</li> <li>・宇佐野菜集出荷施設増築 H23 18,701千円（予定）</li> </ul>	<p>1 園芸産地ビジョン</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関（土佐市、JA、振興センター）で園芸産地課題を共有した。</li> </ul> <p>2-1 JAとさし西部集出荷施設整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集出荷施設整備</li> <li>・生姜高精度重量選別機導入</li> <li>・土佐文旦の光切り選果機導入</li> </ul> <p>2-2 青ネギ集出荷貯蔵施設等再編整備事業</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ハルカール包装機、予冷設備の導入</li> </ul> <p>3 JAとさしピーマン生産拡大支援事業の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成23年度5月の事業採択審査受審に向け事業計画作成に取組んだ。</li> </ul> <p>ニラ 186百万円 (H22園芸年度実績)</p> <p>ショウガ 558百万円 (H22園芸年度実績)</p> <p>土佐文旦 179百万円 (H22園芸年度実績)</p>	<p>ニラの販売額 (H19 1.2億円) 2.1億円</p> <p>ショウガの販売額 (H19 3.4億円) 4.2億円</p> <p>土佐文旦 (H19 1.7億円) 2.2億円</p>	<p>2億円(見込み)</p> <p>5億円(見込み)</p> <p>2億円(見込み)</p>
<p>2. 加工用ワサビの加工の促進</p> <p>《土佐市》</p> <p>農産物価格の低迷、農業者の高齢化や担い手の減少、生産コストの増大など、厳しい環境の中で、加工用ワサビを加工出荷する食品加工会社の取組を支援することにより、加工用ワサビ生産農家の規模拡大や産地育成を図り、基幹品目である加工用ワサビ生産の振興につなげる。</p>	<p>&lt;加工出荷施設の整備&gt;</p> <p>1 一次加工処理能力向上と冷凍機の拡充</p> <p>2 加工用ワサビの生産振興</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工用ワサビ栽培農家への栽培技術指導による生産安定と出荷量増大</li> <li>・新規栽培者の掘り起こしによる栽培農家数の増加</li> </ul> <p>3 その他</p> <p>産業推進総合支援事業費補助金 H22 14,725千円</p>	<p>加工用ワサビの加工出荷量 83.42 t (H22)</p>	<p>加工用ワサビの加工出荷量 (H21 60 t) 130 t</p>	<p>71.331 t (H23実績)</p>
<p>3. 土佐文旦の加工</p> <p>《土佐市》</p> <p>地域の主要品目である土佐文旦の県内市場の飽和化、贈答需要の減少による単価安へ対応するため、加工品の原料としての有効活用を図る。</p>	<p>&lt;土佐文旦の加工の促進&gt;</p> <p>○加工用原料の販路の開拓 3業者</p> <p>○加工品の開発、加工事業の協議 試作の原料提供</p> <p>○商品化されたリキュール等への原料提供</p> <p>○加工品の販路拡大の検討とギフトセットづくり実施</p> <p>○文旦ジュース「ぶんぶん」の生産課題の検討と試飲調査実施</p> <p>○文旦ジュース等の6次産業化の取り組み検討</p> <p>○産業振興推進総合支援事業補助金 H21年：5,040千円</p>	<p>○JAとさし土佐文旦部会と菊水酒造会社が連携し「リキュール」と「ゼリーのお酒」を商品化販売</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原料提供 H20(0 t) → H21(14 t) H22(30 t)</li> <li>・リキュール等の売り上げ H20(0円) → H22(12,000千円)</li> </ul> <p>○JAとさしではJAラベルのリキュールを産地でも販売、ギフトセットもつくり発売 H20(0円) → H22(400千円)</p> <p>○新しい文旦ジュースづくりの商品開発と販路拡大に向け新しい加工業者と連携による6次産業化の活動に取り組みだした。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ソフト事業の導入（希望）</li> </ul>	<p>加工品の販売 2品目</p> <p>下級品の原料確保 80 t</p>	<p>加工品の販売 3品目 (H23年末見込み)</p> <p>下級品の原料確保 50 t (H23年末見込み)</p>

総括	今後の方向性	備考
<p>消費者ニーズに対応するため、少量パック商品や出荷物の厳選および鮮度保持技術導入による商品性の向上を図るなど、「消費者から選ばれる園芸産地」となる事を為の取り組みである。</p> <p>生産者の高齢化や燃油を始め農業経費高騰および景気の悪化による販売価格の低迷など、依然として農業を取り巻く情勢は厳しい状況だが、常に消費者ニーズを把握しつつ的確な対応を取ること、有利販売に繋げる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・園芸産地としての「あるべき姿」の実現に向けた取り組みの推進</li> <li>・系統率の向上</li> <li>・農業担い手の育成</li> <li>・老朽化施設更新、高度化の支援</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売促進活動による産地PRの実践</li> <li>・ブランド化の推進</li> <li>・生産技術向上による出荷量の拡大</li> <li>・系統販売体制（販売力）の強化</li> </ul>	
<p>・販売先である金印嶽が希望する200tの一次加工処理能力は備えることができた。また、農業振興部、園芸連とも有望品目に位置付け、生産振興に取り組んでいる。</p> <p>・加工用ワサビとの組み合わせが可能な品目との営農類型を提案し栽培者の増大に繋げることが重要と思われる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者数の拡大</li> <li>・既存栽培者の栽培規模拡大</li> <li>・栽培技術向上への支援</li> <li>・一次加工処理機械等の有効活用</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係機関との連携強化による新規栽培者の掘り起こし</li> <li>・簡易施設導入の推進と生産量の増大を図る</li> <li>・出荷規格厳守により品質向上を図る</li> <li>・有望品目の探索</li> </ul>	
<p>○酒造会社との連携が始まり、加工品が2品、新発売できた。産地から提供ができる原料はあるが、売り上げが目標より低かったため下がっている。23年3月の震災により嗜好品の消費は一時的に控えられるが商品が消費者に周知できれば販売拡大が期待できる。また、小夏、ボンカンも加工用原料として提供でき、販路が拡大している。</p> <p>○土佐文旦加工組合は10年間販売してきた文旦ジュース「ぶんぶん」を見直し、加工業者と連携した新しい体制で新商品の共同開発と全国への販路拡大による土佐文旦のPRを図る活動に取り組んだ。そのため、今後、新商品が1品以上開発が見込まれ、現在の地域内販路から全国に向けて販路拡大をめざす基ができた。</p>	<p>「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○酒類について</li> <li>・販路拡大</li> <li>・産地側の消費拡大</li> <li>○ジュース類について</li> <li>・土佐文旦加工組合の体制強化</li> <li>・6次産業化活動への取り組み</li> </ul> <p>「方向性」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○産地側と加工業者、販売業者とのさらなる連携体制の強化</li> <li>○広域的な販売を展開するための機会づくり</li> <li>○さらなる商品開発に向けた検討</li> </ul>	

<p>4. 生姜の加工（生姜出荷施設整備事業）</p> <p>《土佐市》</p> <p>地域の基幹品目である生姜のフレッシュ生姜の増産を図るとともに、加工製品の生産性の向上を図り、土佐市内等の生姜生産者の所得向上を目指す。</p>	<p>&lt;加工出荷施設の整備&gt; 生姜の加工品の生産量拡大を図るため、充填機等の導入及び新工場の新設</p> <p>・産業振興推進総合支援事業費補助金 H22 7,519千円（充填機等） H23 43,888千円（工場新設）</p> <p>（予定）</p>	<p>生姜加工品の販売額 H22 114,792千円</p>	<p>生姜加工品の販売額 （H22 87,000千円） 102,000千円</p>	<p>131,834千円 （H23.9見込み）</p>
<p>5. 集落営農の推進</p> <p>《いの町》</p> <p>集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p>	<p>&lt;こうち型集落営農モデル組織の育成&gt; ○集落営農の活動強化 総会、集落座談会、役員会、代表者会 ○有品目導入・協業のための展示実証設置、研修会、検討会 ○県内集落営農組織との意見交換会 ○作業受託組織の活動計画、実績検討 機械整備（関連事業導入） ○協業施設の設置（関連事業の導入）</p>	<p>○協業で酒米と園芸（こら、加工用ワサビ）柚子、ワサビの種採取が開始 ・20年：0ha→H22：1.7ha ○農作業受託の体制の発足し活動開始 ・H20年0→H22年8ha ○新部門の設立と活動に取り組みました。 ・H21年協業部門の設置 ・H23有望品目研究部門の設置</p>	<p>地域の協業の取り組み 1.9ha 農作業延べ受託面積 24ha 新部門設立 2部門</p>	<p>地域の協業の取り組み 1.7ha （H22） 農作業延べ受託面積 8ha （H22） 新部門設立 2部門</p>
<p>6. 新高梨の加工</p> <p>《いの町》</p> <p>生理障害等により廃棄処分されている新高梨を有効活用して新商品を開発し、販売を促進することにより、農業者の所得の向上を図る。</p>	<p>&lt;新高梨の新商品の開発と販売の促進&gt; ○梨生産者の加工用原料提供への意向調査 ○梨シャーベットの販売開始、販路拡大検討 ○酒造株式会社との連携による加工品づくりと加工品原料の提供 ○関係機関の役割分担、協力体制の構築</p>	<p>○JA伊野（H22年11月からJAコスモス伊野支所）果樹部会と菊水酒造会社が連携し新商品の開発中 ・原料提供20年：0→H22年4t ○梨シャーベットの販売 H22年1200カップ販売</p>	<p>加工品の販売 1品目 規格外品の原料確保 7t</p>	<p>加工品の販売 2品目 （H23年末見込み） 規格外品の原料確保 4t（H22年）</p>
<p>7. 本川キジの販路確保と新たな商品開発</p> <p>《いの町》</p> <p>いの町本川地区の特産品として、「本川キジ」の販路の拡大や新商品の開発に取り組み、中山間地域における新たな産業として定着させる。</p>	<p>&lt;生産体制の強化&gt; 解体処理施設整備・飼育マニュアル作成（H20） 給水施設改修・真空包装機械設置・加工処理マニュアル作成（H21） &lt;販売の安定化&gt; ○販路拡大 試食会開催（H20） PR用チラシ・PR用のほり作成・PR用看板作成設置（H21） 食の大商談会出席（H21～H23予定） 首都圏での商談（H22・H23） 関西圏での商談（H23） ○商品開発 新商品開発11品目（H22） 新商品試作販売2品目（H23予定） ・産業振興推進総合支援事業費補助金 H21：2,666千円</p>	<p>飼育羽数の増加 H21 1,907羽 H22 3,918羽 増減 2,011羽 売上高の増加 【全体】 H21 6,235千円 H22 11,148千円 増減 4,913千円増 【内訳】 本川きじ生産組合 H21 6,235千円 H22 7,690千円 増減 1,455千円増 (有)手箱建設 H21 - H22 3,458千円 増減 3,458千円</p>	<p>本川キジの生産羽数 （H20 1,000羽） 4,500羽</p>	<p>1,907羽 （H21） 3,918羽 （H22）</p>

<p>○しょうがの加工品の売上高は順調に伸びており（H20/9月期55,135千円→H22/9月期114,792千円）、目標値を前倒しで達成している状況。</p> <p>○現在も生協を中心に受注が増えている状況であり、生産体制が充実することによって更なる売上高の増加が期待される</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生姜原体の受込量の確保</li> <li>・加工品の売上増</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産農家との年間計画（作付面積、収穫時期等）についての定期的な打合せ会の実施</li> <li>・新規の顧客開発のため、商談会への参加</li> <li>・新商品の開発</li> </ul>	
<p>○4戸が協業での園芸を始め、組合員の個人経営でも14戸が園芸を始めだした。</p> <p>○農作業委託ドリームサポートを活用した農家は24戸、8haであり、利用率が低いため、組合で検討をするほか関係機関連絡会でも検討しており、地区内外で情報提供により今後の面積拡大が期待できる。</p> <p>○有望品目研究部会は自給も含め直販用や地域にあう有望な園芸品目を検討する目的で設置され、組合員広く参加できる部会が設置でき、地域で支え合う情報交換の場としても利用できるようになった。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○協業の営農類型の確立と生産技術の定着</li> <li>○ドリームサポートの体制の強化</li> <li>○部門活動の定着</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○地域全体の園芸の振興、産地化による農家所得の向上</li> <li>○作業受委託による経営コストの低減、オペレーターの育成</li> <li>○高齢化、人口減の地域での支え合う仕組みとしての集落営農活動</li> </ul>	
<p>○酒造会社との連携が始まり、加工品は開発中であり今後期待できる。産地から提供ができる原料はあるが、体制の構築が必要である。</p> <p>○梨シャーベットはH20年から試作販売をしているが、販路拡大が十分でない中、事業主体のJAの合併により販売中止とJAが決定したが、提供できる町内の観光施設のレストランの掘り起こしにより提供できる可能性が生まれてきているので今後期待できる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○酒類の加工品について</li> <li>・新商品の開発</li> <li>・販路拡大</li> <li>・産地側の消費拡大</li> </ul> <p>○シャーベットについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提供できる町内の施設の掘り起こしと提供</li> </ul> <p>○原料を提供する体制強化</p> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○産地側と加工業者、販売業者とのさらなる連携体制の強化による商品の開発販売</li> <li>○観光を視野に入れた地域特産としての梨シャーベットの提供の構築</li> </ul>	
<p>目標達成には到っていないが、飼育及び加工処理マニュアルを作成し、当初飼育羽数より増加した。</p> <p>H23年商品は、新しく「きじつみれ」「きじソーセージ」を追加し、バリエーションを充実させた。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・需要に対応した安定的な生産体制</li> <li>・需要増加に対応できる加工処理設備</li> <li>・販路拡大（首都圏）</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産体制の向上及び採卵鶏舎の増築</li> <li>・増産体制に対応できる加工処理設備の整備</li> <li>・顧客ニーズに合った商品作り</li> <li>・大口顧客の開拓</li> </ul>	

<p>8. 給食への食材提供（安定的な出荷先の確保）</p> <p>《いの町》</p> <p>学校給食へ地元食材を提供するシステムを構築し、供給量を拡大することにより、地産地消や安全・安心な食材の提供を推進するとともに、農業者の所得の向上につなげる。</p>	<p>＜学校給食への地元食材提供するシステムの構築＞</p> <p>○学校給食への地元食材提供するシステムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現状調査の調査結果を直販組織に報告と検討</li> <li>・栄養士・調理師との意見交換会</li> <li>・提供組織である直販組織の強化検討</li> </ul> <p>○学校給食への食材提供 チームで検討</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・提供食材の調査と検討</li> </ul> <p>○関係機関との役割分担と協力体制の構築</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム会での検討</li> </ul> <p>○学校での出前授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・校長会での公募の結果、出前授業 2校実施（生姜、新高梨）</li> </ul>	<p>○JA伊野（H22年11月からJAコスモス伊野支所）は直販部会の事務局として実施</p> <p>※3年間での提供：小学校4校、中学校1校、テイスサービス1施設、育園1カ所</p> <p>○出前授業</p> <p>小学校2校実施（事業費を町単となるなど、定着）</p>		
<p>9. 仁淀川流域茶のブランド化を主体とした茶の振興</p> <p>《仁淀川町、越知町、佐川町、日高村、いの町》</p> <p>良質茶の主産地である仁淀川流域の共通ブランドとして、「仁淀川流域茶」（仕上げ茶）の販売を拡大するとともに、効率的な生産体制の整備や、新たな加工品の開発と販路の開拓により、茶生産農家の所得の向上を図る。</p>	<p>＜仁淀川流域で統一したブランド（仁淀川流域茶）の確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・統一ロゴシール、ポスター、のり等の販促資材の作成</li> <li>・イベント等での販促活動の実施</li> </ul> <p>H21(6回)、H22(10回)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・流域茶(商品茶23種類)の試飲会、茶師による講習会、先進地視察研修</li> <li>・マーケティング研修の実施</li> </ul> <p>＜生産の仕組みづくり(受委託、ゆい等)＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁淀川町沢渡地区実態調査</li> <li>・生産者へのアンケート調査</li> </ul> <p>＜加工品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紅茶審査、試飲会の実施</li> <li>・紅茶製造研修会、紅茶審査・試飲会の実施</li> </ul> <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興推進総合支援事業費補助金</li> </ul> <p>H21：1,209千円 (内県補助金562千円)</p> <p>H22：1,024千円</p>	<p>＜仁淀川流域で統一したブランド（仁淀川流域茶）の確立＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・緑茶(煎茶等)の小売販売額の増加</li> </ul> <p>H19：39百万円 → H22：65百万円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁淀川流域茶認知度の向上</li> </ul> <p>以前から知っていた：49% 最近知った：13% ※H22のアンケート結果</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティングの必要性、消費者ニーズ対応の重要性等の意識改革</li> </ul> <p>＜生産の仕組みづくり(受委託、ゆい等)＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・茶園維持に向けた取組みや将来ビジョン策定の意識付け</li> </ul> <p>＜加工品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・紅茶(材料茶葉)の全農こうちへの販売額</li> </ul> <p>H22：3.1百万円 H23：2.8百万円</p>	<p>仁淀川流域茶（仕上げ茶）の販売量（H19 茶全体の7%） 茶全体の15%</p>	<p>茶全体の11%（H22）  （仕上げ茶/茶全体=23t/205t）</p>
<p>10. 薬用作物の産地拡大による所得の向上</p> <p>《越知町、佐川町、日高村、仁淀川町》</p> <p>大手製薬会社と契約栽培を行っているミシマサイコやサンショウなどの薬用作物の産地を大手製薬会社の漢方薬の需要増に対応できるように拡大し、育成することにより、所得の向上と就労の場の確保を図る。</p>	<p>＜薬用作物の産地の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシマサイコ栽培拡大への取組み</li> </ul> <p>H21：水田地帯での栽培実証及び面積拡大(種子の配布)</p> <p>H22：農薬適用拡大試験及び面積拡大(種子の配布)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンショウ栽培拡大への取組み</li> </ul> <p>H21・22：面積拡大(苗木の育成・配布)</p>	<p>＜薬用作物の産地の育成＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシマサイコの作付面積の増加</li> </ul> <p>H19：38ha → H22：47ha</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・サンショウの作付面積の増加</li> </ul> <p>H19：12ha → H22：59ha</p>	<p>薬用作物の作付面積</p> <p>ミシマサイコ（H19 38ha） 55ha</p> <p>サンショウ（H19 12ha） 40ha</p>	<p>ミシマ150ha サンショウ60ha (H23見込み)</p>

<p>○アクションプランの主旨は理解されてはいるが、直販組織主体の活動とならなかった。23年度は直販施設の統廃合もあり、これを機に直販組合の強化を行い学校給食等に提供できる野菜の調査等実施しながら推進する予定となっている。</p> <p>○出前授業は学校が固定化されているが、今後も期待されている。</p>	<p>「課題」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校等へ安定供給するための体制づくり</li> <li>○栽培の充実</li> </ul> <p>「方向性」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○給食への提供の増加により、地産地消材の多い給食をめざす。</li> <li>○出前授業を実施していない小学校への推進</li> </ul>	
<p>目標の達成には一歩及ばなかったものの、仁淀川流域全体をイメージした販促資材を活用し、流域ぐるみで積極的な販促イベントやPR活動を実施することで、一定のブランドイメージの構築と知名度の向上を図ることができた。その結果、小売販売量の増加に繋がった。また、煎茶以外の紅茶などの商品開発にも取り組み商品のレパートリーの拡充化を図ることができた。しかし、今後さらなる知名度や小売販売の安定化には10年以上はかかると考えられ、息の長い取り組みが必要と考えられる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・さらなる知名度向上と消費拡大</li> <li>・新たな取引先・販売先の確保</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者による消費者との関係づくり</li> <li>・おいしいお茶の淹れ方指導等</li> <li>・家庭、学校・職場等で緑茶を飲む習慣づくり</li> <li>・産地と連携できる販売店・販売先の確保</li> <li>・高品質茶を生産できる生産体制づくり</li> </ul>	
<p>越知町の農事組合法人ヒューマンライフ土佐が中心となって薬用作物の面積拡大に取り組んできた。その作付面積は仁淀川流域から嶺北、幡多地域まで拡大し、全県下的な取り組みになっている。特にサンショウの面積拡大が顕著であった。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシマサイコの栽培技術（安定発芽）の確立</li> <li>・サンショウの収穫労力の確保</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ミシマサイコの発芽安定のための詳細な発芽条件の調査</li> <li>・サンショウの組織的な労力確保対策の検討</li> <li>・ミシマサイコ・サンショウ以外の薬用作物の安定生産</li> </ul>	

<p>1 1. 力強い高糖度トマト産地の確立</p> <p>《日高村、仁淀川町、佐川町》</p> <p>地域の特産品の高糖度トマトに新たなブランドを加えることにより、付加価値を高め、産地間競争力を強化し、生産者の所得の向上につなげる。</p>	<p>〈高糖度トマトの産地間競争力の強化〉</p> <p>【高単価での販売】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな糖度区分による商品開発(3種類)と販促デザインの一掃</li> <li>・新たな糖度区分に伴う選果システム</li> <li>・トマトホームページの作成</li> <li>・HPを活用したオリジナルブランド商品のインターネット販売の実施</li> <li>・消費者モニター調査や消費地でグループインタビューの実施</li> <li>・「シュガートマト」の看板やのぼり旗の設置による産地のアピール</li> </ul> <p>【食の安全安心】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・トマト選果場へのトレーサビリティシステム等の導入</li> </ul> <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興推進総合支援事業費補助金</li> </ul>	<p>〈高糖度トマトの産地間競争力の強化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高糖度トマトの販売実績(大玉含む)</li> </ul> <p>H19：4.2億円 → H22：3.7億円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高糖度トマト(シュガートマト)の市場単価の上昇</li> </ul> <p>H19：726.1円/kg → H22：785.7円/kg</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・インターネット販売によるオリジナルブランド商品の販売実績</li> </ul> <p>H22：360千円(60ヶ-入) H23：204千円(34ヶ-入)</p>	<p>高糖度トマトの販売額 (H19 4億円) 5億円</p>	<p>3.7億円 (H22)</p>
<p>1 2. 地域を支える基幹品目の振興</p> <p>《越知町、佐川町、日高村》</p> <p>中山間地域のほ場条件や気象条件を活かした基幹品目の振興によって、農業所得の向上を図り、地域の活性化を目指す。</p>	<p>〈栽培技術の向上、安定的な生産の維持〉</p> <p>【ニラ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・レンタルハウス整備事業による施設整備、講習会・現地検討会</li> <li>・目慣らし会等の開催、新規就農者及び新規栽培者の確保・育成</li> </ul> <p>【ピーマン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講習会・現地検討会・目慣らし会等の開催、新規栽培者の育成</li> </ul> <p>〈山椒の安定的な栽培技術の確立、加工品の開発と販売〉</p> <p>【食用山椒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム会(19回)、圃場巡回調査(3回)、総会(3回)等の開催</li> <li>・栽培暦検討会、GAPシート記入(H21~23)、加工品検討(H21~22)、土壌調査(H23)</li> </ul> <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・こうち農業確立総合支援事業費補助金</li> </ul> <p>H21：752千円 (山椒用低温貯蔵庫)</p>	<p>〈栽培技術の向上、安定的な生産の維持〉</p> <p>【ニラ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売額の増加</li> </ul> <p>H19：280百万円 → H22：311百万円</p> <p>【ピーマン】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売額の増加</li> </ul> <p>H19：97百万円 → H22：99百万円</p> <p>【食用山椒】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・販売額の増加</li> </ul> <p>H19：4,250万円 → H22：6,461万円</p>	<p>ニラの販売額 (H19 2.8億円) 3.4億円</p> <p>ピーマンの販売額 (H19 1.0億円) 1.3億円</p> <p>食用山椒の販売額 (H19 4,250万円) 6,200万円</p>	<p>ニラの販売額 311百万円 (H22)</p> <p>ピーマンの販売額 99百万円 (H22)</p> <p>食用山椒の販売額 6,461万円 (H22)</p>

<p>食の安全・安心への取り組み強化、イメージ戦略と合わせた高糖度トマトのワンランク上の商品設定が可能となり、多様化するニーズに対応した販売戦略を展開する基礎が出来た。</p> <p>産地の問題点の把握やシュガートマトのファンづくりのきっかけが出来た。</p> <p>また、上記の取り組みを産地が一体となり進める中で、住民(生産部会)の活動が活性化し、部会の中で販売班、販促・宣伝班、栽培管理班、品質管理班が作られ、部会の主体的な取り組みがされるようになった。</p> <p>商品の付加価値を高めたことにより販売単価は向上したが、土壤病害(萎凋病)等の多発により安定生産にいたらず減収傾向にあった。土壤病害対策を徹底することにより反収の増加を図り生産量を上げることで販売額の向上を見込む。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>安定生産のための技術向上及び病害虫対策の徹底</li> <li>生産者主体の産地目標の設定</li> <li>他産地商品との差別化した販売戦略の展開</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>既存栽培技術の向上及び病害虫防除の徹底</li> <li>産地目標の達成に向けた支援</li> <li>消費者の囲い込みによる販売額の向上</li> </ul>	
<p>&lt;ニラ&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標達成には及ばなかったものの、施設整備による生産体制は整いつつある。新規就農者及び新規栽培者の確保・育成も行われ、今後の販売額の増加が期待される。</li> </ul> <p>&lt;ピーマン&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標達成には及ばなかったものの、新規栽培者の確保・育成も行われ、今後の栽培面積及び販売額の増加が期待される。</li> </ul> <p>&lt;食用山椒&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>目標は達成したが、収穫作業の人手不足、生育不良樹の発生等新たな課題も出てきている。</li> </ul>	<p>&lt;ニラ&gt;</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>さらなる施設の整備。</li> <li>生産者数及び栽培面積の拡大</li> <li>新規就農者及び新規栽培者の栽培技術の向上</li> <li>収量及び品質の高い品種の導入</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規就農者及び新規栽培者の確保・育成、規模拡大、栽培技術の向上等を図り、産地全体の生産量及び販売額の拡大を目指す。</li> </ul> <p>&lt;ピーマン&gt;</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産者数、栽培面積及び収量の拡大</li> <li>新規栽培者の栽培技術の向上</li> <li>土壤病害への対策</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>新規栽培者の育成、栽培技術の向上等を図り、産地全体の生産量及び販売額の拡大を目指す。</li> <li>土壤病害抵抗性品種の導入により生産量の増加を目指す。</li> </ul> <p>&lt;食用山椒&gt;</p> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>生産増加に伴う、乾燥機の不足や収穫時期の人手確保、販路確保。生育不良樹の原因究明</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>中山間地域の特性を活かし、農業所得の向上を図り地域の活性化を目指す。</li> </ul>	

<p>13. 集落営農による地域にあった農業の仕組みづくりの推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>集落の農業者が協力して、管理が困難となった農地や高齢者等の労力などの地域資源を活用した農業経営を行い、将来にわたって地域で生活できる一定の所得と雇用の場を確保するための集落営農の仕組みづくりを行う。</p>	<p>〈こうち型集落営農モデル組織等の育成〉</p> <p>【営農組合運営指導・助言】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チーム会40回、役員会44回(H21~23)</li> <li>・共同作業・作業受委託、飼料稲、基盤整備地排水対策等指導(H22~23)</li> <li>・視察研修及び集落営農研修会開催(H22~23)</li> <li>・アンケート調査の実施と結果分析(H21)</li> <li>・農地利用現況図・計画図の作成(H21)</li> </ul> <p>【品目導入・栽培技術指導】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水農会(講習会、現地検討会等：H21~22)</li> <li>・葉ニンニク等栽培指導(H21~23)</li> <li>・新品目の導入検討及び栽培指導(H23)</li> </ul> <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平野沖排水路改修工事(こうち)</li> </ul> <p>農業確立総合支援事業：H22~23</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・視察研修等(こうち型集落営農)</li> </ul> <p>支援事業：H20~22)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基盤整備：中山間地域集落営農</li> </ul>	<p>【H2こうち型集落営農モデル組織等の育成】</p> <p>【H21】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・葉ニンニクの共同栽培5a</li> <li>・ピーマン栽培2戸13a</li> <li>・ミシマサイコ栽培2戸60a</li> <li>・稲作の現状分析と話し合いによるコスト高への認知度向上・集落農業の対策のまとめ</li> <li>・農地利用現況図及び計画図の作成により、課題共有等ができた。</li> </ul> <p>【H22】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水稻収穫の共同作業と料金表作成</li> <li>・営農計画(平野沖)を活用した耕作放棄地対策の検討</li> <li>・基盤整備地の土地改良方策の検討・実施(堆肥散布等)</li> <li>・葉ニンニク共同栽培等の実施(7a) 販売収入は前年比50%に留まった。</li> </ul> <p>【H23年度】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ピーマン栽培2戸</li> <li>・共同ほ場スイートコーン20a</li> <li>・共同ほ場ミシマサイコ20a、春</li> </ul> <p>先の低温で発芽不良により6月に栽培を中止</p>	<p>集落営農組織(H20新規)1組織</p>	<p>RAAVひらの営農組合設立(H20)</p>
<p>14. 間伐の推進</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>「森の工場」を核にして、林業事業体や担い手の育成などに取り組み、間伐の推進と素材の増産を図る。</p>	<p>〈「森の工場」の実施と樹立〉</p> <p>〈森林計画の樹立と計画的な施策の実行〉</p> <p>〈林業事業体の育成〉</p> <p>〈担い手の育成〉</p> <p>【H21】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業体への事業説明会(10事業体)</li> <li>・間伐推進連絡会開催(1回)</li> <li>・市町村担当者事業説明会(2回)</li> <li>・地域座談会(22回)</li> </ul> <p>【H22】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・森林組合ブロック会(1回)</li> <li>・事業体への事業説明会(10事業体)</li> <li>・間伐推進連絡会(2回)</li> <li>・市町村担当者事業説明会(1回)</li> <li>・地域座談会(22回)</li> </ul> <p>【H23(7月末現在)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業体への事業説明会(10事業体)</li> <li>・市町村担当者事業説明会(1回)</li> <li>・地域座談会(1回)</li> </ul>	<p>【森の工場樹立状況】</p> <p>H20：1工場、92.44ha H21：4工場、430.54ha H22：2工場、333.64ha ※ H23年度末(9事業体) 11工場、2,913.27ha</p> <p>【間伐実績】</p> <p>H20：1,108ha H21：1,218ha H22：1,388ha H23：1,200ha(計画)</p>	<p>木材の素材生産量(H18 6.3万m<sup>3</sup>) 7.1万m<sup>3</sup></p>	<p>6.0万m<sup>3</sup>(H23見込み)</p>
<p>15. (株)ソニアを核とする仁淀川流域における木材産業の振興</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>仁淀川流域における間伐の推進と素材の増産等に対応するため、(株)ソニアを核とする流域の製材工場等の経営体質の強化など、加工・流通の安定化に向けた取組を進め、木材産業の振興を図る。</p>	<p>〈流域産材の加工・流通の安定化に向けた取組〉</p> <p>【H21】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・管内企業(素材生産・木材加工)の実態調査(26事業体)</li> </ul> <p>【H22】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワーキング開催(4回)</li> </ul>			

<ul style="list-style-type: none"> <li>・佐川町で初めての集落営農組織として組織化することができた。</li> <li>・組合の運営や集落の課題解決への対応について、役員らで相談しながら、実行できるようになってきた。</li> <li>・共同ほ場において、農業所得の向上につながる品目の検討を行ったが、所得向上までには至っていない。</li> <li>・集落全体の農業基盤整備の検討が始まり、水路改修、耕作放棄地再生に向け、事業導入することができた。</li> </ul>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組織運営と体制づくり</li> <li>・作業受委託・共同作業の実践</li> <li>・ミシマサイコの面積拡大</li> <li>・ピーマンの生産性向上</li> <li>・共同ほ場における新品目の導入検討</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・組合運営・栽培技術指導等の継続実施</li> </ul>	
<p>「森の工場」の推進により、事業体や担い手の育成、間伐の推進には成果があった。 素材生産は、木材価格の低迷等により目標を達成することはできなかった。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事業体、担い手の育成</li> <li>・施業地の集約化</li> <li>・低コストへの取り組み</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・集約化の促進</li> <li>・高性能林業機械の導入促進</li> <li>・生産基盤の整備</li> </ul>	
<p>核となる（株）ソニアの運営が行き詰まり流域の加工、流通の安定化に向けた取り組みが出来なかった。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木材価格の低迷</li> <li>・加工・流通体制の未整備</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工・流通体制の整備</li> <li>・経営体質の強化</li> </ul>	

<p>16. 県産材の地域における需要拡大</p> <p>《仁淀川地域全域》</p> <p>県産材の利用推進と需要拡大のPR等を行うことにより、木材・木製品の地産地消を推進する。</p>	<p>〈県産材の地域内での需要拡大に向けた取組〉</p> <p>【H21】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産材利用推進本部会(1回)</li> <li>・伊野地区県産材利用地域推進会(1回)</li> <li>・木材利用実態調査(1回)</li> </ul> <p>【H22】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・県産材利用推進本部会(2回)</li> <li>・伊野地区県産材利用地域推進会(1回)</li> <li>・木材利用促進法説明会(1回)</li> <li>・木材利用実態調査(1回)</li> </ul> <p>【H23(7月末現在)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・木材利用実態調査(1回)</li> </ul>	<p>【公共土木事業での木材利用量】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H20: 1,557.04m<sup>3</sup></li> <li>・H21: 1,743.03m<sup>3</sup></li> <li>・H22: 911.77m<sup>3</sup></li> </ul>																										
<p>17. シキミ・サカキの販売拡大</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>シキミ・サカキの生産量の増加等に対応した集出荷施設の整備や、品質向上のための取組などにより、販売を拡大し、生産者の所得の向上を図る。</p>	<p>〈シキミ・サカキの生産の拡大と品質の向上〉</p> <p>【H21】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・栽培指針の作成</li> <li>・現地研修(1回)</li> <li>・生産実態調査(1回)</li> <li>・採算者等協議会(4回)</li> <li>・目慣らし会(1回)</li> </ul> <p>【H22】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・病害虫サンプル調査(4回)</li> <li>・目慣らし会(1回)</li> <li>・病害虫防除講習会(1回)</li> <li>・採算者等協議会(4回)</li> </ul> <p>【H23(7月末現在)】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者等協議会(2回)</li> </ul> <p>〈その他〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域林業総合支援事業補助金 H20: 2,857千円</li> </ul>	<p>【出荷量】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>シキミ</th> <th>サカキ</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20: 11.7 t</td> <td>7.7 t</td> <td>19.4 t</td> </tr> <tr> <td>H21: 14.6 t</td> <td>6.9 t</td> <td>21.5 t</td> </tr> <tr> <td>H22: 15.7 t</td> <td>6.6 t</td> <td>22.3 t</td> </tr> </tbody> </table> <p>【販売額(千円)】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>シキミ</th> <th>サカキ</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>H20: 6,545</td> <td>8,809</td> <td>15,354</td> </tr> <tr> <td>H21: 8,087</td> <td>7,916</td> <td>16,003</td> </tr> <tr> <td>H22: 8,098</td> <td>7,520</td> <td>15,618</td> </tr> </tbody> </table>	シキミ	サカキ	計	H20: 11.7 t	7.7 t	19.4 t	H21: 14.6 t	6.9 t	21.5 t	H22: 15.7 t	6.6 t	22.3 t	シキミ	サカキ	計	H20: 6,545	8,809	15,354	H21: 8,087	7,916	16,003	H22: 8,098	7,520	15,618	<p>シキミ・サカキの出荷量 (H19 22 t) 26 t</p>	<p>シキミ 18 t サカキ 8 t 計 26 t (H23見込み)</p>
シキミ	サカキ	計																										
H20: 11.7 t	7.7 t	19.4 t																										
H21: 14.6 t	6.9 t	21.5 t																										
H22: 15.7 t	6.6 t	22.3 t																										
シキミ	サカキ	計																										
H20: 6,545	8,809	15,354																										
H21: 8,087	7,916	16,003																										
H22: 8,098	7,520	15,618																										
<p>18. うるめのブランド化</p> <p>《土佐市》</p> <p>「宇佐のうるめ」を原料にした新たな加工品の開発や鮮魚の販路の開拓により、需要の拡大を図るとともに、地域限定の名物食として提供できる体制づくりにより、観光分野への経済効果の波及を目指す。</p>	<p>〈宇佐のうるめのブランド化〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・マーケティング調査やHP、PRツールの作成</li> <li>・スーパーマーケットトレードショーや各種イベントに参加</li> <li>・うるめを使ったレシピの開発</li> <li>・加工場の新設及び加工機械等の充実</li> </ul> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興推進総合支援事業費補助金 H21 2,603千円(市場調査、PR等) H22 15,000千円(加工場新設、加工機械の充実)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・鮮魚の販路開拓や加工品の開発企画、商品モニタリング調査等売込みの為の基本戦略ができた</li> <li>・うるめのブランドや鮮度、料理法について認知が向上した</li> <li>・飲食店等への売込みツールができた</li> <li>・加工品の生産能力の向上ができた</li> </ul>	<p>うるめの水揚量 (H19 119 t) 150 t</p>	<p>88. 2 t (H22)</p>																								

<p>公共建築の木造・木質化、公共土木事業における木材使用を2つの柱とし取り組み、県産材利用促進、需要拡大のPRができ、木材・木製品の地産地消の推進が出来た。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共事業の減少</li> <li>・県産材利用のPR</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・公共建築物等への木材利用の促進</li> <li>・公共土木事業での積極的な木材利用促進</li> </ul>	
<p>現地研修、目慣らし会、病害虫防除研修等に取り組み品質が向上し、集出荷施設の整備により、生産量の増大が図られ、生産者の所得向上が図られた。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産量の増加</li> <li>・販売価格の向上</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者の拡大</li> <li>・栽培面積の拡大</li> <li>・流通体制の整備</li> <li>・優良品種への転換</li> </ul>	
<p>『宇佐の一本釣りうるめいわし』の年間を通じて生産・販売する体制及びブランド化は一定できてきた。 また、加工場の新設等によって、顧客からのニーズに対応でき、取引件数も伸びてきている。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇佐もん工房及び宇佐もんや経営の安定化</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商談会等へ参加し、販路の拡大を行う</li> <li>・新商品（個人向け商品）の開発</li> </ul>	

<p>19「土佐和紙」の販売促進 《いの町、土佐市》</p> <p>地域の伝統産業である「土佐和紙」は、売上げが低迷し、生産が減少していることから、手すき和紙の県内外での消費拡大を図り、原料や担い手の確保につなげる。</p>	<p>&lt;土佐和紙の消費拡大に向けた取組&gt; ○販売組織 i-nos.netの設立 いの町内の製紙会社6社と和紙専門店での新しい土佐和紙ブランドを設立 ○高知国際版画トリエンナーレ展 開催することにより版画用のみならず土佐和紙の普及・促進を図る。 また、ポスター・DM・チケット封筒等への和紙の利用促進。 ○個性的な新商品の開発 「なぞって龍馬になろう」などの個性的な商品の開発による和紙の新規需要の拡大。 ○和紙の利用促進 卒業証書、名刺等に和紙を使用することの促進 ○産業振興アドバイザー招へい8回</p>		<p>土佐和紙の販売額 (H19 1.6億円) 1.6億円</p>	<p>H22 1.2億円</p>
<p>20. 高岡日曜市の活性化などによる地域商業の振興 《土佐市》</p> <p>土佐市の「高岡日曜市」の臨時拡大版である「あったか高岡スーパー日曜市」を開催し、高岡商店街で楽しめるスペースをつくること、サンシャイン高岡跡地にテナントミックスの「にぎわいのまち」をつくることによって来街者の増加を図り、地域の商業の振興につなげる。</p>	<p>&lt;高岡商店街の来街者を増加させる仕組みづくり&gt; 集客拠点施設の建設に向け、商工会及び農協等で構成される土佐市商店街活性化推進協議会を設置。 H24秋のオープンを目指して運営等について協議。</p> <p>・産業振興推進総合支援事業費補助金 H23 1,000千円（基本計画策定） (予定)</p>	<p>土佐市商店街活性化推進協議会を及び実働部隊である推進部会において、各団体と今後の運営等について協議を行っている。</p>		
<p>21. 地域産品を活用した冷菓等の製造 《いの町》</p> <p>地域産品のゆず、トマト、いちご、文旦等を活用したアイスクリーム、シャーベット、ドリンク等の生産性の向上を図るとともに、地域生産者の所得向上を目指す。</p>	<p>&lt;生産体制・品質管理の強化&gt; ・浄化槽の大型化・付属品取付機導入・冷蔵保管庫設置・品質管理施設設置・梱包印字機導入（H22） &lt;販路拡大・販売促進&gt; 国内・東南アジア商談会出展（H22） 英語版・中国語版のHPとPR用パンフレットの制作（H23予定） 東南アジア商談会出展（H23予定） &lt;商品開発&gt; ドリンクの新商品と健康用冷菓ドリンクの完成（H22） ・産業振興推進総合支援事業費補助金 H22：11,119千円 H23：2,000千円（予定）</p>	<p>ドリンク売上高（4月～7月）の増加 4,711千円増 H22 全体 4,021千円 内訳 4,021千円（ユズ） H23 全体 8,732千円 内訳 5,760千円（ユズ） 2,972千円（トマト）</p>	<p>冷菓等の販売額 3.825億円</p>	<p>3.757億円 (H22)</p>

<p>景気低迷やデフレ等の要因で、目標の達成には及ばなかったが、紙産業全体が大幅に落ち込むなか、土佐和紙知名度の向上、下降一途のたどっていた販売額の減少の鈍化や原料栽培、加工技術の継承に一定の効果がでている。特に土佐和紙が認知されるようになり、利用しようという機運の向上が見られた。(卒業証書利用学校の増加、清酒のパル、ふるさと博名刺等)</p> <p>廃業になっていた書道用紙の復活や、新規書道半紙の誕生により、今後の受注対応や販売額増加に期待ができる。</p>	<p>《課題》 土佐和紙販売額の向上を図る上でキーマンとなる立場の組織や人材が不在。</p> <p>商品(土佐和紙)としても原紙のみの販売は限界があるので、i-nos.net等を活用し、商品化、包装等で付加価値をつけた販売戦略を構築する必要がある。</p> <p>また、手すき職人も高齢化して後継者の育成が課題。現在、人気のある商品も生産量が少なく、注文があっても断る事例も多くなっている。(鳥の子名刺、清張紙、納経帳、がんび紙等)</p> <p>所得の向上も含めて職業として魅力あるものにすることが必要。</p>	
<p>集客が低迷している高岡日曜市のみならず、高岡商店街、土佐市全体を活性化させるため、市内の各団体が集まり集客施設について協議を行っている。</p> <p>H24の集客施設の建設によって、買物難民対策や商店街の集客力の回復が見込まれる。</p>	<p>【課題】 ・安定的な運営のため、他店舗（スーパー等）との差別化</p> <p>【方向性】 ・市内各地にある直販所の統一を行い、集客力を高める ・まちあるきの拠点や観光案内を行うことにより、土佐市の情報発信の場とする</p>	
<p>生産体制を強化するため、施設設備を整備したことにより、同時期に開発したドリンクが好評で受注量が増加したが、増産が円滑にできた。</p> <p>また、H22に香港でのアイスクリーム販売許可が取得することができたので、今後販路の拡大が見込まれる。</p>	<p>【課題】 ・海外市場の販路拡大 ・顧客ニーズへの対応</p> <p>【方向性】 ・インターネットHP及び海外向けパンフレットの制作 ・顧客ニーズを把握した商品開発</p>	

<p>22. ㈱フードブランドの地域 商社化への取組</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>仁淀川町において、地域の商社として「㈱フードブランド」を位置付け、一次産品を活用した商品づくりを進め、雇用の確保や農家所得の向上につなげる。</p>	<p>＜カット野菜事業の主力商品づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・四国内の量販店全てに取引が拡大</li> <li>・県内の食材配達サービス業者、鮮魚卸業者等との取引開始</li> </ul> <p>＜新商品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・豆腐の新商品を販売開始</li> <li>・緑茶を使ったスイーツの商品化</li> <li>・豆腐スイーツの商品化への取組み</li> <li>・野菜の端材を使ったスープの商品開発への取組み</li> </ul> <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興推進総合支援事業補助金</li> </ul> <p>H21：34,000千円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興アドバイザー招へい1回</li> <li>・農商工連携事業化支援事業債</li> </ul>	<p>＜カット野菜事業の主力商品づくり＞</p> <p>＜新商品の開発＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・売上高の増加</li> </ul> <p>H20.9：2.3億円 → H22.9：3.2億円</p>	<p>㈱フードブランドの販売額 (H19.10～20.9 2.3億円) 2.6億円 (H22.10～23.9)</p>	<p>3.2億円 (H22) 3.6億円 (H23.9見込み)</p>
<p>23. 売れる商品づくりによる 地産外商の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>佐川町において、地元民間企業の商品の販売の促進や、一次産品を使った特長のある商品づくりにより、地産外商を推進し、外貨の獲得を目指す。</p>	<p>＜地元産品による売れる商品づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地乳プロジェクト会設置 (H21)</li> <li>・地乳プロジェクト会 10回、商標等についての研修会 1回</li> <li>・加工品3品完成</li> <li>・イベント等での販促活動 5回</li> <li>・量販店での販促活動 8回 (H23 予定)</li> </ul> <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H21産業振興アドバイザー招へい3回</li> <li>・産業振興推進総合支援事業費補助金</li> </ul> <p>H22：1,000千円(ステップアップ)</p> <p>H23：1,511千円(予定)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・高知県加工食品パッケージデザイン支援事業費補助金</li> </ul> <p>H21：400千円(吉本乳業)</p>	<p>＜地元産品による売れる商品づくり＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生乳出荷量の増加</li> </ul> <p>H21：240t → 260t (H22)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・加工品の売上実績(H22)</li> </ul> <p>地乳パン：105千円 地乳プリン：376千円 地乳アイス：600千円 地乳特濃ミルク：18,758千円</p>	<p>生乳出荷量拡大 480t</p> <p>生産乳価向上 単価50%増</p> <p>加工業者収入増</p>	<p>生乳出荷量 260t (H22)</p>
<p>24. 企業進出による雇用の 増と地元企業の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>日高村において、既存企業の訪問(アフターケア)の充実や遊休施設等の活用などによる企業誘致の取組を進めるとともに、地域資源を活用した企業の取組等を支援することにより、地域の産業の振興につなげる。</p>	<p>＜既存企業の活性化と新規進出企業の誘致による地域産業の振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日高村プロジェクト会議の開催及び村内企業の訪問活動の実施</li> </ul>	<p>＜既存企業の活性化と新規進出企業の誘致による地域産業の振興＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業間連携のための企業連絡会の立ち上げ</li> <li>・澁谷食品㈱の自社ブランド芋菓子製造の専用工場整備の支援</li> <li>・㈱エスエスのペット用木質系排泄物処理剤製造施設の誘致</li> </ul>		<p>村内外2社の事業を支援</p>
<p>25. 地元企業の活性化(芋菓子加工販売拡大事業)</p> <p>《日高村》</p> <p>高知県産のさつま芋を活用した新製品の開発などによる生産販売の拡大を推進する。</p>	<p>＜自社ブランド製品(芋菓子)製造の専用工場の整備と販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・芋菓子製造工場の整備</li> <li>・県外(松山市)への新店舗設置</li> </ul> <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興推進総合支援事業費補助金</li> </ul> <p>H21：50,000千円</p>	<p>＜自社ブランド製品(芋菓子)製造の専用工場の整備と販路拡大＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品加工新規部門販売額の増加</li> </ul> <p>H21.7：2.0億円 → H23.6：2.35億円</p> <p>円</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生産者の原料芋の出荷増加</li> </ul> <p>H22：100t → H23：160t</p>	<p>食品加工新規部門の販売額 (H21.7 2.0億円) 3.5億円 (H23.7)</p>	<p>2.35億円 (H23.6) ※11ヶ月実績</p>

<p>目標の達成を1年前倒して実現。雇用増にも貢献。主力商品が「カット野菜」であるため、野菜の高騰により利益確保が困難な局面もあったが、順調に販売額を伸ばした。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・現施設での生産能力が限界に達しており、今以上に、地域経済へ貢献（雇用増、農家所得増等）するには、新工場の建設を検討する必要がある。</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・町とも連携しながら、地産地消に向けた新たな仕組みづくりに取り組む。</li> </ul>	
<p>H21年度から商工会有志の集まりで、農商工連携組織である「企画本舗さかわ屋」で地元産の牛乳を使った商品づくりの取り組みを進める中で、酪農家輪含めた地乳プロジェクト会を設置し、「さかわの地乳」を使った加工品シリーズの商品化・ブランド化を図り、そのPR・販売促進の取り組みを行った。</p> <p>目標値は達成できていないが、地元の自主的な活動が活発化し、生乳出荷も増加傾向にあり、生産者の所得も上がってきている。また、地乳加工品も増え、加工業者の売り上げも上がり、加工業者の所得向上や地域への経済波及効果も見込まれる。また、県内量販店と販売取り組みも進んでいる。今後の展開によっては、生産者・加工業者の所得が更に向上し、地域への経済波及効果が高まっていくことが期待できる。</p>	<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「さかわの地乳」シリーズ商品の管理、「地乳」商標管理を含めた組織の確立と体制の強化</li> <li>・酪農家への直接収入化となる取組み</li> <li>・「さかわの地乳」の牛乳、加工品等の販売ルートの確立</li> </ul> <p>&lt;方向性&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たなさかわの地乳加工品開発・販売</li> <li>・新しい施設の整備</li> <li>・既加工業者の施設拡充</li> <li>・農商工連携組織の企業化</li> <li>・さかわの地乳の飲食サービスへの展開</li> </ul>	
<p>村内企業の澁谷食品(株)の生産拡大への取組み、村外企業の(有)エスエスの木質系ネコ砂製造施設の誘致に成功し、地域資源の活用や村内での新たな雇用を生むことなどができた。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業が立地するための適地の把握</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・既存企業の活性化及び新規進出企業のさらなる誘致</li> </ul>	
<p>目標の達成には及ばなかったものの販売額は伸びている。また県外（松山市）へ新店舗がオープンしたことから、H24以降の事業展開に期待ができる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・需要増に伴うさつまいもの供給不足</li> <li>・栽培管理による原材料の安定供給</li> <li>・観光事業と連携しての工場見学施設の検討</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原材料のさらなる安定した供給体制の構築</li> <li>・顧客のニーズの把握と対応</li> </ul>	

<p>26. 企業進出による雇用の増（ペット用木質系排泄物処理剤製造施設整備事業）</p> <p>《日高村》</p> <p>木質系のネコ砂製造事業に取り組む県内企業の施設整備事業を日高村に誘致し、村内での新たな雇用に創出する。また、原材料の木材チップや茶葉については仁淀川流域でほぼ全量を調達することから、雇用と併せた地元生産者への経済効果の波及を目指す。</p>	<p>＜ペット用木質系排泄物処理剤の製造施設の誘致＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村有の遊休施設にネコ砂製造施設を整備</li> <li>＜その他＞</li> <li>・産業振興推進総合支援事業費補助金</li> </ul> <p>H22：50,000千円</p>	<p>＜ペット用木質系排泄物処理剤の製造施設の誘致＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・村内での新規雇用 4名</li> <li>・販売額</li> </ul> <p>1,000千円(H23.5～6)</p>	<p>ペット用木質系排泄物処理剤の販売額（H22新規）</p> <p>3,400万円</p>	
<p>27. 体験型観光・食観光の推進</p> <p>《土佐市》</p> <p>土佐市において、地域資源を活用し、体験型観光と食観光を組み合わることによって滞在時間の延長を図り、宿泊を伴う滞在型観光につなげる。</p>	<p>＜体験型観光及び食観光の推進＞</p> <p>○まちあるき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇佐、高岡地域のまちあるきガイド団体を結成。</li> <li>・ガイド養成講座など各種研修会に参加</li> </ul> <p>○土曜日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アドバイザーを迎え、宇佐土曜市を核とした体験型観光の推進検討会を実施</li> </ul> <p>・ふるさと雇用再生特別基金事業「うるめと観光のまちづくり」</p>	<p>○まちあるき</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宇佐地区はモニターツアーを実施し好評を得ているが、ガイドが体調不良の為現在受入を休止中である。なお、高岡地域の団体による宇佐地域でのスルーガイド化を検討中。</li> <li>・高岡地区は、マップを作成し、秋口の受入開始に向けて準備を進めている。</li> </ul> <p>○土曜日</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・土曜市のチラシを、高知市の旅館・ホテルを中心に配布。「宇佐で土曜日」といったイベントの定着及び周知を行った。</li> </ul>	<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数（H19 52,156人）</p> <p>60,000人</p>	<p>52,902人（H22）</p>
<p>28. 体験型観光メニューづくり</p> <p>《いの町》</p> <p>いの町において、地理的条件を活かした体験メニューづくりや自然を満喫できるメニューづくりなどに取り組み、体験型観光を推進する。</p>	<p>＜体験型観光推進のためのメニューづくり＞</p> <p>○仁淀川地域観光協議会の設立</p> <p>H22年10月に設立。モニターツアー及び流域観光の企画・立案・実施。</p> <p>○体験型観光メニューの創設及び観光インストラクターの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・まちなみガイド養成講座及びモニターツアーの実施。</li> <li>・ラフティングインストラクター養成講座(産振アドバイザー活用)の実施及び土佐和紙工芸村へハード整備(ボート・更衣室・受付・棚整備)を実施。</li> <li>・山岳ガイド養成講座</li> <li>・B級グルメ仁淀川カレーの検討及びモニターイベント実施(サニーアクシス)</li> </ul> <p>○産業振興アドバイザー招へい27回</p>	<p>○仁淀川地域観光協議会の設立</p> <p>18ツアーを企画。仁淀川の知名度向上と観光資源の発掘・情報発信を図っている(18ツアーのうち7月末現在10ツアー催行163名が参加)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁淀川地域特別情報員(NASA まちおこし隊)の設立により、ブログ等で仁淀川情報を広く発信。</li> </ul> <p>○ラフティング</p> <p>H23年7月から運営開始。7月末現在で30組約100名以上が利用又は予約済みと順調</p> <p>○仁淀川カレー</p> <p>H23年度、流域6商工会で予算を計上し、のぼり、チラシ等の作成を図り、加盟店の増加を目指している。</p>	<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数（H19 52,156人）</p> <p>60,000人</p>	<p>52,902人（H22）</p> <p>※伊野町内の公共関連宿泊施設の宿泊者数(参考)</p> <p>H19 35,024人</p> <p>↓</p> <p>H22 36,235人(1,211人増)</p>

<p>製造施設の操業により村内での4名の雇用が創出された。本格的な生産開始が7月からとなったことから、事業効果や原材料の木材チップや茶葉等の仁淀川流域での調達による地元生産者への波及効果については、H24.8期の事業実績での評価となる。</p>	<p>【課題】 ・製造ラインの改善等への対応による、生産の遅れや追加投資への対応 ・販売ルートに合わせた新商品の提案に対応できる体制の構築</p> <p>【方向性】 ・製品販売の提携先や金融機関との連携</p>	
<p>観光のメニューがほとんどなかった土佐市において、2地域からまちあるきコースが誕生するなど、体験型観光の推進に向けて一定成果が見え始めている。 また、宇佐の土曜市も旅行商品に組み込まれ、高評価を得ている。</p>	<p>【課題】 〈まちあるき〉 ・ガイド人の不足</p> <p>〈土曜市〉 ・出店者及び出展品目の不足</p> <p>【方向性】 〈まちあるき〉 ・先進地への研修等を行い、ガイドのレベルアップを行う。また、2地域のスルーガイドを養成及び新たなガイドの募集を行う</p> <p>〈土曜市〉 ・宇佐もんやの出店品目の増加及び、新たな出店者の募集</p>	
<p>仁淀川地域観光協議会の設立や新たな体験型メニューの構築等により、いの町内の公共関連宿泊施設の利用者も増加しており、流域全体での目標達成は微妙であるが、雇用の増加（土佐和紙工芸村他）や所得の向上、地域の活性化につながっている。</p> <p>H23年度はNHK高知放送局80周年記念として、8月以降仁淀川を全国放送されるということで、さらなる観光客の増加も期待される。</p>	<p>《課題》 今年、NHKで全国放送されることを契機に、今後、仁淀川が注目されることは期待されるが、現状では、ハード・ソフト両面で、流域で受け入れる体制が構築されておらず、流域上げて取組む組織体制の整備が課題。</p> <p>また、従来から流域で弱い食の観光も含め、さらなる魅力ある体験型観光メニューの構築を目指す必要がある。</p>	

<p>29. 「仁淀川」での遊覧船（屋形船）の運航</p> <p>《いの町》</p> <p>全国的な知名度が低い「仁淀川」を総合的に売り出すため、近畿・関東地方の旅行業関係者の関心が高い、遊覧船（屋形船）の運航に向けた取組を進める。</p>	<p>＜遊覧船（屋形船）の運航の実現に向けた取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・遊覧船の上流・下流可能性調査実施。</li> <li>・いの町・いの町観光協会・日高村・参入予定企業で実施に向けた具体的協議を実施。</li> </ul> <p>H24年度中の開始を目指す</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遊覧船の事業主体として当初予定していた土佐和紙工芸村は撤退。</li> <li>日高村での建設業者（田中建設）が参入を希望。村との具体的な運営方法等の協議及び仁淀川漁協との協議を実施中。</li> </ul>	<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19 52,156人) 60,000人</p>	<p>52,902人 (H22)</p>
<p>30. 「グリーンパークほどの」の多面的な活用</p> <p>《いの町》</p> <p>「グリーンパークほどの」を環境学習施設として整備し、小・中学校の環境教育の体験学習の場や、企業等の研修の場としての利用を促進することにより、体験型観光の推進を目指す。</p>	<p>＜「グリーンパークほどの」の環境学習の場としての活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○グリーンパークほどの環境学習の村構想を作成</li> <li>・ワークショップを開き環境学習の村構想を具体化。</li> <li>・円卓会議の開催。</li> </ul> <p>○いの町環境シンポジウムの開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・環境先進企業(太陽石油、NTTドコモ等)を招き、体験型プログラムの披露、「企業CSR活動と環境学習」をテーマにしたパネルディスカッション等を実施。</li> </ul> <p>○新たな体験型プログラムの構築及びインストラクターの養成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・バウムクーヘン・ほうしパンづくりのインストラクター養成講座の実施</li> <li>○産業振興推進総合支援事業費補助金 H21:1,492千円</li> <li>○産業振興アドバイザー招へい7回</li> </ul>	<p>《いの町環境シンポジウムの開催》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加企業やアドバイザーから今後に向けての環境学習や企業CSR活動についての貴重なアドバイスをいただいた。</li> </ul> <p>《新たな体験プログラムの構築》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・H22からバウムクーヘンづくり・ほうしパンづくりのメニューを始め、利用客数が増加。(対前年550名増)、サポーター5名を養成。</li> </ul>	<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19 52,156人) 60,000人</p>	<p>52,902人 (H22)</p> <p>※「グリーンパークほどの」の宿泊者数(参考) H20 1,455人 ↓ H22 1,607人 (152人増)</p>
<p>31. 「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」を活用した交流人口の拡大</p> <p>《いの町》</p> <p>「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」の地理的な条件を活かし、アスリート等を対象にした高地トレーニングや、高地を活用した健康増進メニューの開発を行い、他の観光資源とも組み合わせることにより、体験型観光を推進する。</p>	<p>＜「山荘しらす」と「町道瓶ヶ森線」の多面的な活用＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○高地トレーニング及び健康増進メニュー</li> <li>町内中学校陸上部モニター (H21)</li> <li>健康ウォーキングモニター (H22)</li> <li>県外高校・大学陸上部モニター (H23予定)</li> <li>○体験メニューづくり</li> <li>冬の体験モニターツアー (H22)</li> <li>春の体験モニターツアー (H23)</li> </ul>	<p>山荘しらす宿泊者数 H21 1,147人 H22 827人</p> <p>＜観光ツアー＞</p> <p>瓶ヶ森ハイキング(主催:観光会社) (H23、7月・8月予定)</p> <p>山岳ウォーキング(主催:観光協会) (H23、10月予定)</p>	<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19 52,156人) 60,000人</p>	<p>52,902人 (H22)</p>

<p>当初、見込んでいた企業での実施は図れなかったが、新たな参入企業が現れ、実現に向け準備を進めており、漁協や河川管理者との具体的協議を進めている段階である。</p> <p>このため、成果目標の達成までには至っていないが、実施が実現すれば、雇用の増加や雇用の増加や地域の活性化につながるものである。</p>	<p>現在、アクションプランとしては、いの町を主体に実施しているが、現計画では、日高側で事業を実施の予定あり、今後、実施に向けては、日高側を主体に実行支援チームの組換えが必要になる。</p> <p>また、運営にあたっては末永く継続して実施するために、PRや運営方法を実行支援チーム等で十分に議論を行う必要がある。</p>	
<p>環境学習の村構想に基づく、ワークショップ及びシンポジウム等により、企業CSRや環境学習の場として徐々に取組を進めている。</p> <p>また、新たに導入した体験型プログラムも年々利用者が増加傾向にあり、夏休みなどは予約でいっぱいになるなど、順調に推移している。</p>	<p>宿泊施設の対応人数が限られており、企業研修や学校の環境研修においても、利用できる団体が限られてくるため、当面は県内の企業・学校又は近隣の愛媛・香川等の企業の事業所単位・学校のクラス単位の利用等の促進・PRを考えていきたい。</p>	
<p>高地トレーニングのモニター等実施されたが、商品化までには達していない。</p> <p>また、体験メニュー作りもモニターツアーを実施しているが、完成には繋がっていない。</p> <p>しかし、どちらもモニターには好評であり、商品化が期待される。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・商品化</li> <li>・商品の売り込み</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・モニターを検証し早期に商品化に取り組む</li> <li>・高地トレーニングは県外の学校や社会人陸上部等へのPRに取り組む</li> </ul>	

<p>32. 仁淀川流域を中心としたジオパークへの取組による交流人口の拡大</p> <p>《佐川町、越知町、仁淀川町、日高村、津野町、禰原町》</p> <p>横倉山から佐川町にかけての貴重な地域資源（地質）を活かし、仁淀川流域を中心に、天狗高原（四国カルスト）も組み合わせ、「世界ジオパーク」の認証に向けた取組を進め、交流人口の拡大につなげる。</p>	<p>＜「世界ジオパーク」の認証に向けた広域的な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会担当者会14回(H21・22)</li> <li>・仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会担当課長会4回(H21・22)</li> <li>・仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会地元説明会5地区(H21)</li> <li>仁淀川・四国カルストジオパーク推進協議会総会4回(H21・22)</li> </ul> <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興アドバイザー-招へい1回</li> </ul>	<p>＜「世界ジオパーク」の認証に向けた広域的な取組＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ジオパーク認定への作業については、ジオサイトの選定について一定進んだ段階で、円滑な推進を図るために全体計画を見直すこととなったものの、世界ジオパーク認証のために必要と想定される工程や費用負担などを踏まえた全体計画を基にして検討を行い、仁淀川・四国カルストジオパーク推進の方向性について、6町村間での合意形成ができつつある。</li> </ul>	<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19 52,156人) 60,000人</p>	<p>52,902人 (H22)</p>
<p>33. 観光情報のコーディネートと情報発信拠点の設置</p> <p>《仁淀川町》</p> <p>仁淀川町において、情報発信基地の整備や観光情報ネットワークの構築などによって、観光情報の充実を図り、滞在型観光の振興につなげる。</p>	<p>＜情報発信基地の整備＞</p> <p>＜観光情報ネットワークの構築＞</p> <p>＜おもてなし活動の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイド養成研修8回</li> <li>・観光団体HP整備6か所</li> <li>・宿泊施設ゆの森リニューアル</li> <li>・観光PR素材、看板製作</li> <li>・エターナル-実施4回</li> <li>・ゆの森及び宝来荘施設整備</li> <li>・観光資源調査20回(H23予定)</li> <li>・ツアー-実施10回(H23予定)</li> </ul> <p>＜その他＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・産業振興アドバイザー-招へい14回</li> <li>・町単独事業(HP・施設整備)</li> <li>・ICT事業、インターンシップ事業等の活用</li> </ul>	<p>＜情報発信基地の整備＞</p> <p>＜観光情報ネットワークの構築＞</p> <p>＜おもてなし活動の実施＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光を考える会発足(H22)</li> <li>・旅行会社のツアー-5回(H23,8)</li> </ul> <p>※HPの整備によりネットワークや情報発信力の強化が図られ。また、各団体等の観光受け入れ強化、ガイド力の向上と相互連携が行われ、観光事業を行うリーダー的存在の団体も活動を始めてきており、ハード、ソフトの両面が充実してきた。</p>	<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数 (H19 52,156人) 60,000人</p>	<p>52,902人 (H22)</p>

<p>・世界ジオパーク認証には、住民意識の盛り上がりやジオサイトの整備、実施主体の組織化など、整備事項が多岐にわたり、費用負担も相当規模になると見込まれることから、取組を円滑に推進するためにはこれらを盛り込んだ事業計画の策定が必要である。</p> <p>・しかしながら、初年度は推進協議会を中心にHPの開設やジオサイトの選定など、比較的費用負担が少なく済む日本認定をとりあえず目指すという方針で進めたところ、作業を進める中で、町村間の足並みにずれが生じたことに端を発し、認識に町村間で大きく相違があることが顕在化したことから、認定に向けてどのような作業が必要となるのかまず確認すべきとの気運が高まった。その後、専門家を招へいした検討会の実施などを経て計画案の検討を行い、各町村間では、世界認定も含めたジオパークの全体像を見通したうえで再度検討すべきとの意見にまとまった。</p> <p>・そのため、23年度からは、事業主体である佐川町の担当セクションを変更し、取組の進んでいる室戸ジオパークの活動内容や事業費を参考に、作業スケジュールや対応する費用負担を明らかにした事業計画を策定し、6町村全体で方向性を検討した。</p> <p>・推進協議会を立ち上げてから、担当者会や担当課長会、首長による総会等において何度も議論し、結果として取組はリセットすることとなったが、協議を行う中で、ジオパークへの認識が深まり、世界認定への作業工程、費用負担などに関して6町村間で正しく共有できたことで、異例ともいえる6つもの自治体が共同して進めようとしている広域ジオパーク認定申請に向けて、よりよい方向性を示すための態勢が整った。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・関係町村間での意識の統一</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今後は、観光施策との役割分担の整理や費用対効果を考慮しながら、ジオパーク認定に必要な作業スケジュールや費用負担額など詳細な全体計画を基にして、各町村間の合意形成を図りながら進めていく。</li> </ul> <p>※世界認定に向けて整備すべき項目</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 各6町村での説明会の実施や様々なイベントでの啓発活動など、最も重要であり、最も時間を要する地域住民の認知度の向上</li> <li>2 どのように地質資源の保全を行うか、地質等を如何に教育に役立てるか、地質遺産を楽しむジオツーリズムによって如何に地域経済活性化を図るかなどジオパークの3つの柱の整備</li> <li>3 ジオパーク推進拠点や多言語案内看板、説明版等の設置等のハード整備</li> <li>4 しっかりとした運営と運営計画の策定が実施できる運営母体の整備（組織は公的機関、地域社会、私的団体、および研究教育機関などからの構成）</li> </ol>	
<p>情報発信力の強化や新しい観光団体、既存団体のブラッシュアップ、食観光への取り組みを強化してきた結果、着実に基礎力が増してきた。</p> <p>また、ICT事業やインターンシップ事業、その他アドバイザーの活用などによって地域との交流による外的な好影響があいまって、地域住民が仁淀川町の観光資源とその活用に本格的に取り組むようになってきており、その活動が内面から充実してきた。その結果、「仁淀川町の観光を考える会」が発足し、観光資源の磨きあげ、ガイドカUP、着地型観光づくりやその販売手法の確立に向けて組織的に活動が行えるようになってきた。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・戦略的なランドデザイン、ターゲットを絞った着地型観光、お金の落ちる仕組み、リピーターにつなげる観光振興への取組み</li> <li>・ガイド養成活動の強化</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・差別化した観光のビジネスモデル(グリーンツーリズム等)の構築</li> <li>・着地型観光の充実と事業者意欲の向上</li> </ul>	

<p>34. 歴史的風致維持向上計画の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>「文教のまち」佐川町において、シンボリック建造物である民具館や歴史的建造物、観光施設を整備することにより、一体的な歴史的風致を形成し、観光資源としての充実を図る。</p>	<p>〈一体的な歴史的風致の形成〉 【景観・歴史的環境形成総合支援事業（国、H21・22）】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐川町文庫庫舎（旧青山文庫）移築</li> <li>・浜口邸買取</li> <li>・上町小公園整備</li> <li>・牧野公園遊歩道等整備</li> <li>・パンフレット、ホームページ作成等</li> </ul> <p>【佐川町歴史的風致地区への集約プラン策定（町、H21）】 【街なみ環境整備事業（H23予定）】</p>	<p>〈一体的な歴史的風致の形成〉 ・ハード整備・ソフト事業実施による来客数の増加</p> <p>（H21）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青山文庫入館者 1,982人</li> <li>観光ガイド者 974人</li> <li>イベント来客者 1,145人</li> </ul> <p>（H22）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>青山文庫入館者 2,663人</li> <li>観光ガイド者 1,021人</li> <li>イベント来客者 1,750人</li> </ul>	<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数 （H19 52,156人） 60,000人</p>	<p>52,902人 （H22）</p>
<p>35. 佐川町における知的体験型観光の推進</p> <p>《佐川町》</p> <p>佐川町の歴史街では、「学ぶ楽しみ・触れる楽しみ・交わる楽しみ・五感の楽しみ」大人の知的好奇心を刺激する「佐川学」による観光を目指し、量より質の観光地域づくりやメニューづくりに取り組み、佐川町における知的体験型観光を推進し、交流人口の拡大につなげる。</p>	<p>〈知的体験型観光の集客拡大のための条件整備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐川町歴史的風致重点地区観光総合計画策定（町、H23予定）</li> <li>・名教館移設用地の買収（町、H23予定）</li> </ul>	<p>〈知的体験型観光の集客拡大のための条件整備〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐川町歴史風致重点地区観光総合計画（仮称）の策定（H23見込み）</li> <li>名教館修復移築活用計画</li> <li>牧野公園花見棟改修活用計画</li> </ul>	<p>体験型施設での入込客数 5,000人</p>	
<p>36. 佐川町収蔵資料を活用した地域の活性化</p> <p>《佐川町》</p> <p>佐川町には偉人の多くの収蔵資料があり、特に植物学者として世界的に著名な牧野富太郎博士にちなんだ収蔵資料が多くある。この植物標本や植物画等の展示施設を整備し、集客の核として充実を図る。また、佐川町では、平成24年には牧野博士の生誕150年にあたり、ポスト「龍馬伝」として「牧野博士」を旗頭とした地域活性化を推進する。</p>	<p>〈牧野博士の収蔵資料の多面的な活用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐川町歴史的風致重点地区観光総合計画策定（町、H23予定）</li> </ul>	<p>〈牧野博士の収蔵資料の多面的な活用〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・佐川町歴史風致重点地区観光総合計画（仮称）の策定（H23見込み）</li> <li>牧野資料館（地場産むか-）改修活用計画</li> </ul>	<p>体験型施設での入込客数 5,000人</p>	

<p>H21・22年度は、歴史的風致地区において国庫補助事業を活用し、佐川文庫庫舎（旧青山文庫）の上町への移築、景観を損なっている建物を取壊しての小公園整備など、観光資源としての充実を図っている。ソフト事業では、ホームページやパンフレットの作成など対外的な広報活動、情報発信を行っている。また、イベントの開催など、地域での断続的な活動も行っており、こうした結果、徐々にではあるが観光客の増加がみられている。</p> <p>H22年度で、国庫補助事業の景観・歴史的環境形成総合支援事業が見直しとなるが、こうした取組は街なみ環境整備事業へ移行して事業を継続して行くため、H23年度には、街なみ環境整備事業計画書作成し、引き続き観光資源としての整備と活用を検討していく。地域ではNPO法人佐川くろがねの会を中心に観光資源を生かした観光ガイドの充実や商工会と共催でイベントを図かり、地域の活動が活発化しつつある。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的風致維持向上計画と整合性のとれた、街なみ環境整備事業計画を作成し、各施設の事業効果を明確にして、連携した観光資源としての活用を検討して事業を進める必要がある。</li> <li>・佐川町で地域全体としての情報発信や地域で作りこんだ観光の提案を積極的に実施する観光組織の設立が必要である。</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・街なみ環境整備事業の計画書作成</li> <li>・観光の取りまとめ組織の構築</li> </ul>	
<p>H23年度作成の佐川町歴史風致重点地区観光総合計画（仮称）の中で、「佐川学」をテーマに量より質の知的体験の観光地域づくりを検討する。今後の事業展開の中で、知的体験ができる施設の移築や改修を進めることによって、新たな観光メニューができ、地域への経済効果波及と地域活性化等の効果が期待出来る。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的風致維持向上計画と整合性のとれた、観光総合計画を作成し、各施設の事業効果を明確にして、連携した観光資源としての活用を検討して事業を進める必要がある。</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設の役割・必要性・効果を明確化した活用計画の作成</li> </ul>	
<p>H23年度作成の佐川町歴史風致重点地区観光総合計画（仮称）の中で、佐川町にある偉人の収蔵資料を活用、特に「牧野博士」を展示する施設を改修することにより、新たな観光メニューができ、地域への経済効果波及と地域活性化等の効果が期待出来る。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的風致維持向上計画と整合性のとれた、観光総合計画を作成し、各施設の事業効果を明確にして、連携した観光資源としての活用を検討して事業を進める必要がある。</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各施設の役割・必要性・効果を明確化した活用計画の作成</li> </ul>	

<p>37. 越知町の総合的な観光推進と地場産品の販売促進</p> <p>《越知町》</p> <p>情報発信機能と物販機能を持った、「越知町観光物産館おち駅」を整備し、そこを拠点に越知町における観光振興と物産販売体制の強化を図る。</p> <p>また、地域の様々な素材を組み合わせた交流・体験型観光のメニューづくりや地場産品等を活用した加工体制づくりと新商品開発に取り組み、観光及び物販による外貨の獲得につなげる。</p>	<p>＜JＲバス越知駅跡地の多面的な活用＞</p> <p>・観光物産館おち駅の整備</p> <p>＜越知町の総合的な観光推進の仕組みづくりと地場産品等を活用した加工体制づくり＞</p> <p>・統一イメージデザイン、リーフレット、プロモーション映像の作成</p> <p>・ご当地ソフト、土佐あか牛バーガーの販売開始</p> <p>・ラフティング・インストラクター養成講座10回実施、ラフティングインストラクター11名養成（いの町と合同で実施）</p> <p>・カヌー、ラフティングの体験型観光メニューの開始（7月～）</p> <p>＜その他＞</p> <p>・産業振興推進総合支援事業費補助金 H21：22,991千円 H22：5,701千円</p> <p>・産業振興「バザー」招へい15回</p>	<p>＜JＲバス越知駅跡地の多面的な活用＞</p> <p>＜越知町の総合的な観光推進の仕組みづくりと地場産品等を活用した加工体制づくり＞</p> <p>・直販所売上高の増加 H21：3,027万円 →H22：5,647万円</p> <p>・直販所への農林水産物等の納入者（越知産市会員者数） H21：124人 →H22：141人</p> <p>・越知町への入込客数 H20：14万人 →H22：16.6万人</p> <p>・カヌー及びラフティング利用者 H23見込み：900人</p> <p>・簡易ログハウス利用者 H23見込み：500人</p>	<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数〔再掲〕 （H19 52,156人） 60,000人</p> <p>整備後の施設での販売額 6,000万円</p>	<p>52,902人（H22）</p> <p>5,647万円（H22）</p>
<p>38. 国宝と体験型観光による交流人口の増と地域の活性化</p> <p>《日高村》</p> <p>日高村において、小村神社の国宝（大刀）の有効活用や、恵まれた自然環境を活かした体験型観光により、地域での交流人口を拡大し、地域の活性化につなげる。</p>	<p>＜交流人口の拡大のための条件整備＞</p> <p>・岡花調整池周辺観光案内看板等の整備。観光ガイド養成講座の開催（10回）観光ガイド10名育成</p> <p>＜その他＞</p> <p>・産業振興「バザー」招へい13回</p> <p>・村単独事業による既存直販所の改修計画作成（H23）</p>	<p>＜交流人口の拡大のための条件整備＞</p> <p>・モニターツアー開催利用者 H22：53名 H23：36名（7月末現在）</p> <p>・村内イベント等でのガイド実践利用者 約150名</p>	<p>公共関連宿泊施設での宿泊者数〔再掲〕 （H19 52,156人） 60,000人</p>	<p>52,902人（H22）</p>

<p>目標の達成には一歩及ばなかったものの「観光物産館おち駅」での農産物の販売高が伸びたことにより、やりがいを感じ始めた農家からの出荷量が増えてきている。また、H23年から取組みを始めた体験型観光による交流人口の拡大が期待ができる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・越知産市会員の高齢化による出荷量の減少</li> <li>・冬場の体験型観光のメニューが無い。</li> <li>・団体客に対応できるだけのラフティング・インストラクターがいない。</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新たな出荷者の掘り起こし</li> <li>・顧客のニーズの把握と対応</li> <li>・作成した経営改善計画の着実な実行</li> <li>・継続的なラフティング・インストラクターの養成</li> </ul>	
<p>観光ボランティアガイド組織の立上げ、ガイドの育成、直販所の改修計画作成、国宝（大刀）のレプリカ作製・展示の検討等、観光受入れ体制は整いつつあることから、H24以降の展開に期待ができる。</p>	<p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光協会等が無いため、情報発信・問い合わせ対応の窓口がない。</li> <li>・既存直販所の改修</li> <li>・観光交流における大幅な集客方法がない</li> </ul> <p>【方向性】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した直販所改修計画の着実な実行</li> <li>・広域的な連携を視野に入れた観光交流人口の拡大</li> </ul>	